

閉塞性肺疾患外来

風邪でも喘息でもない、心臓も悪くない、しかしながら咳が出る、ゼイゼイいう、坂を上るときしんどいといった症状をお持ちの方がおられることでしょう。

お年を召してくると、気管支の柔軟性が次第に失われ、硬くなってきます。そのために気管分泌物（痰）が出しにくくなりますので、しょっちゅう咳をして痰を出そうとする働きが顕著となります。

また空気（酸素）を取り入れて、炭酸ガスを排出する仕事をしている肺胞という小さな風船の集まりも、柔軟性が衰えてきます。その結果、ガス交換が円滑に行われなくなり、だんだん呼吸が苦しくなってくるわけです。

これらを総称して慢性閉塞性肺疾患（Chronic obstructive pulmonary disease : COPD）といっています。おもに年配の方にみられ、その背景にタバコの喫煙などが関与していることが多いのです。

◎肺疾患の治療について

上田先生（前愛媛県立中央病院の院長で、呼吸器、呼吸器リハビリテーションの専門医）が診察をし治療方針を立て、日常生活の取り組み方についてのアドバイスをして下さいます。

このようなことを当院で行っていることをご承知いただき、呼吸器疾患でお困りの方々にお声をかけて下されば幸に存じます。

閉塞性肺疾患外来の予定

- < 診察 > 上田先生の診察日
月 1～2 回、木曜日の午後
前もって日取りを公示します。
- < 担当 > 藤井医師